

28年間の祝島ぐるみ反対運動と 11年越しの関電プルサーマル

8月26日(木) 17:50～19時頃 講義室にて

【それでも新規原発を建てようとする】

自然豊かで希少生物や絶滅危惧種がいる山口県田ノ浦の海を埋め立てて新規原発を建てようとする国と中国電力。その原発建設予定地の対岸にはハート型の島、祝島があります。その住民は生活の源である海を守るために9割が「原発絶対反対」を28年間も訴え続けています。「月曜デモ」と田ノ浦の座り込みのVTRを交えて訪れた空気を紹介したいと思います。



中電との現場でのやりとり

海の埋め立てにつながることはお断りだと、祝島のおばちゃんたちはがんばっています。

「中電の言うことは信用できん」…今まで不条理にされてきたことの積み重ねの言葉です。

* みんなと一緒に書いた布メッセージは、田ノ浦の工所用仮棧橋のゲートにつけてもらいました。

【プルサーマルの開始の条件に、使用済み MOX 燃料の処理方策は関係ない! ?】

国の保安院(原子力政策の安全を管理監督する機関)との交渉では、全国から市民40人が集まりました。その対応は、もはやプルサーマル推進機関そのものでした。

使用済み MOX 燃料の処分方法は「貯蔵」という東電。廃棄物処理に関して、それは原子炉等規制法違反ではないかとつめより、8月3日に「貯蔵」は処分の方法ではないと言った国。福島では6日の午前にもプルサーマルの了承をするというタイミング。そこで国に5日までに福島に確認するよう求め、国も了解しました。ところが、実際福島に確認したのは6日。その時福島県はプルサーマルの了承を終えた後でした。福島の原発では14年も前の MOX 燃料を8月21日に装荷するという急進ぶり。

核のゴミが宙に浮く! ? 国・県・電力会社が一体となった、異常なまでの推進。どうしてなの?

1) 28年間の反対運動 祝島訪問報告

なぜか報道されないこと…、おばちゃんの中電とのやりとり等

2) プルサーマルに関するこの間の動きについて

関電交渉でわかったこと

MOX 燃料を当面保管するプールの水漏れ対策は600cc/h以上になったら見回りを一日に1回 3回にする

国との交渉でわかったこと

プルサーマルの開始の条件に、使用済み MOX 燃料の処理方策は関係ない

福井県への申し入れでわかったこと

アメリカのプールの水漏れ事故に対する無関心さ…原子力安全対策課長の態度と、敦賀住民の声
使用済み燃料プールに関するアメリカの現状報告について

気付かれない水漏れ…発見は5年後! きっかけは現場の労働者で偶然 地下水汚染で水が配給



アメリカの報告をするケビンさん